

think⁺ seminar

第4回 think++ human & nature

「鳥の巣が教えてくれること 人はなぜものをつくるのか」

鳥の巣は鳥の家ではありません。

卵を産むときにつくり、ヒナが巣立つと雨や風で自然に壊れ土にかえります。

鳥の卵やヒナは栄養があるので、外敵に見つかると食べられてしまいます。

そんな弱い生命を巣立つまで守るための安全な空間が鳥の巣です。

妊婦さんのおなかの形と同じ美しい形のハタオリドリ、

羊の毛をフェルト状にして寒さから守るツリスガラなど、

世界中の鳥が地球という多様な環境に適応し、

それぞれの場所で誰にも教わず、それぞれの巣を作り新しい生命を育てているのです。

様々な鳥の巣などの不思議な造形物の映像などを見ながら、

なぜ人は物を作るのか、知識や情報が氾濫した今の世の中をどう生きるか、

といったことを鳥の巣を通して考えてみたいと思います。



画家・絵本作家・鳥の巣研究家

鈴木 まもる

【略歴】1952年東京に生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科中退。野山でみつけた鳥の巣の造形的魅力にとりつかれ、独学で鳥の巣の研究と収集を始める。「ほくの鳥の巣絵日記」講談社出版文化賞。「ニワシロりのひみつ」産経児童出版文化賞。2002年ニューヨーク、2013年カリフォルニアはじめ、全国で鳥の巣の展覧会を開催している。



日 時：2018年10月22日(月) 16:00開場 > 16:30開演 > 18:50終了

会 場：国立新美術館 3階講堂(東京都港区六本木7-22-2)

講演者：鈴木まもる(画家・絵本作家・鳥の巣研究家)

講演タイトル：「鳥の巣が教えてくれること 人はなぜものをつくるのか」

参加費：無料 定員250名

お申込：日本設計コーポレートサイトからお申込下さい

<http://www.nihonsekkei.co.jp>

お問合せ：日本設計コーポレートサイトからのお問合せ

<https://www.nihonsekkei.co.jp/contact/>

日本設計広報室：kouhou@nihonsekkei.co.jp

主 催：日本設計

